

1、研究主題

自ら学び生きる力を高める子どもの育成

～お互いのちがいを認め合い、生き方を共に高め合う集団を育てる

特別活動をめざして～

2、主題設定の理由

本校は、子どもたちの低学力傾向を乗り越えるために、7年間算数科の研究に取り組んできた。教職員一丸となり、課題解決に向け、いろいろな側面からの取り組みを進めていった。授業研を行いながら様々なことに取り組んだ。徐々に子どもたちの基礎的・基本的な学力も上向いてくると同時に、学校全体の雰囲気も落ち着いてきた。本来の陵西の子どもたちの良さである素直で真面目な姿が発揮される場面もみられるようになり、「お互いの考えを伝え合う」学習の在り方についても研究を進めた。

さらに、「特別の教科」として道徳が教科化されるのに合わせて、「考えを伝え合う」ことができる子どもたちを、道徳科を通して育てていく道筋を明らかにしていきたいと研究を進めた。「授業の中で自分事としてとらえて考えていくこと」を大切にするために、ねらいをより具体的に表現することも行ってきた。また、人権教育を要してきた本校ならではの取組も行うことができた。事前事後指導の中に人権教育の取組とつなげて計画したり、なかま集会の前に全校道徳として各学級で授業を行い内容の深まりを促したりと、取組を深めてきた3年間である。

このような取組を経て、多くの子どもたちが「自分の考えや思いをもつことができている」と答えている。一方で、その考えを発表できている子は多くはない。また、素直で真面目な子どもたちであるが故に目の前におかれた課題に対しては解決していくことができる。しかし、自分たちの力でくらしを良くしていくために、自ら課題を見つけ解決に向けて一歩踏み出しいく経験が少ない。そこで、昨年度からは特別活動を研究の柱とし、お互いの「考えを伝え合う」ことがお互いの「ちがいを認め合う」出発点になると考え、そのちがいを受け入れて共に生きることを良しとするだけの集団ではなく、自分のよさや可能性をより高めあっている集団を育てていくことを目指し、研究を行った。ゼロからのスタートとなった昨年度は、学級会活動を中心に、研修を行ったり、研究授業を行ったりした。学級会で話し合い活動を重ねる中で、主体的に課題を解決しようとする姿や、発言しようとする姿、責任をもって行動する姿が増えてきた。また、そのような姿が他教科での学習でも見られるようになってきた。係活動においても児童が自ら考え、楽しく積極的に活動している様子が見られた。また、平成24年度「小学校学習指導要領実施状況調査」（国立教育政策研究所）において、ペーパーテスト調査と質問紙調査のクロス集計を行ったところ、特別活動に熱心に取り組む教師の学級や特別活動の取り組みに対して肯定的に回答した児童が多い学級ほど、多くの教科において平均正答率が高いという分析結果が出ている。学力向上の側面からも昨年度と同様今年度も、この学級での話し合い活動（学級活動（1））の充実を中心に研究を進めていくことが重要だと考える。

その学級での話し合い活動に加えて今年度は、代表委員会、各委員会活動等の児童会活動の充実についても研究を進めていく。昨年度までの児童会活動は、各委員会や各学年それぞれが、学校をよくするために挨拶運動をしたり、集会等を企画したりしていた。それぞれが一生懸命に活動をしてはいるものの、なかなか学校全体に浸透することができなかった。今年度はそれぞれの考えたことを、学校全体で共有し、全委員会、全学年が協力して様々な集会や活動を行い、お互いを高め合えるような仕組み、仕掛けを作れるようにしていきたい。また、「縦割りの活動」や学校行事とも関連させながら、お互いのちがいを認め合い、生き方を共に高め合う集団を育てる特別活動を追究していきたい。

(2) 昨年度の成果と課題

○今年度1年目の取組であったが、学級活動を充実させることができると、子どもたちの姿が次のように変わってきた。

- ・主体的に考え、解決しようとする場面が、子どもたちの中に増えてきた。
- ・一人一人が考えて責任をもって行動するようになってきた。
- ・自分の思いや考えをみんなの前で発言できる子が多くなった。その姿は、他教科でも見られるようになった。
- ・子どもたちから話し合いをしたいという子どもたちが増えた。
- ・「係活動と当番活動の違い」を明確にできると、係活動の活性化につながった。「学級をより楽しくするためにはどんなことができるといいか」という視点で子どもたちが考え、積極的に活動することができた。

◇例えば「お楽しみ会をしよう」であれば、話し合いの1番目である「何をするか」に時間をとられがちになり、その後の話し合いの時間を深めにくくなる。

◇学級活動の取り組みは、学級の独自性に任される部分も多い。しかし、子どもは変わらないので、「学級会の進め方のマニュアル」や「話し合い時の黒板掲示グッズ」などは、低・中・高学年別に学校全体で統一していくことが必要である。話し合いに必要なスキルが身に付くと同時に、子どもたちの考えを可視化することができ、話し合い活動を充実させることにつながる。

◇子どもたちが楽しみながら、協力しながら、主体的に取り組むことができる学級での「係活動」を充実させていく。そのために、係活動と当番活動の違いなどの研修を重ねていく。

☆クラブ活動・委員会活動については、先日の文化部の総括にかえたい。

1、クラブ活動

- ・来年度の指導ボランティアについて、書道、フラダンスの指導は、引き続き指導していただける見通しである。
- ・異学年集団の活動であるので、今一度人数等検討していく。
- ・毎年、人数が偏っているクラブについては、新たに希望をする児童を優先にする。
- ・児童数・教員数が減少していることもあり、クラブの見直しが必要である。児童にどんなクラブをしたいかアンケートを取るなど、クラブの活性化について次年度の特別活動の研究の中で深めていきたい。

2、委員会活動

- ・今年度、全校児童に各委員会紹介を行った。特に、環境委員会から掃除の仕方について紹介してもらうことで、全校児童に掃除の仕方について確認できた。
- ・ボランティアさんに感謝の気持ちを伝えようと「ありがとう集会」を開催する。来年度は、運営委員会を中心に進められるようにしていきたい。
- ・金曜日の集会で「なかま集会」「音楽集会」に加え、委員会集会を計画した。
- ・今年度、集会の時間が取れないときは火曜日に時間の確保をしてきたが、来年度は、スラスラ学習や読書活動を確実に確保するために火曜日に集会は実施しないようにしたい。それにかえて、給食時間等に放送室やスタジオからテレビや映像を使った集会も可能なので活用したい。
- ・各委員会の年間計画をたて、学校行事とのかかわりを検討していきたい。

◇来年度、学級活動の深まりと広がりを目指していくことと、学校行事や児童会活動についても論議を深め取組を進めていきたい。例えば、代表委員会活動の活性化や、運動会での子どもたちの主体的な活動などの実践に努める。

(3) 今年度の研究の重点等

- ・ 全体計画、年間指導計画の見直し
- ・ 学級会においての授業展開の教職員同士の共通理解と指導法の統一
- ・ 統一された学級会グッズの作成
- ・ よりよい合意形成や意思決定につなげる授業展開の工夫
- ・ 計画委員会の充実
- ・ 学級での係活動、当番活動の活性化
- ・ 教室、校内環境の整備（学級活動コーナー、児童会活動・クラブ活動コーナーの作成など）
- ・ 委員会活動の充実
- ・ 代表委員会の活用
- ・ 異年齢集団活動（たてわり掃除、陵西チャレンジ等）の見直し、充実

(4) 研究計画

実施時期	研究内容、研究方法等	期待される成果等
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級会グッズの作成 ・ 学級会職員オリエンテーション（中止） ・ 全体計画、年間指導計画の見直し ・ 環境整備（教室内の掲示物など） ・ 校内研究授業の実施※1 6月24日（水） 高学年（未定） ・ 異年齢集団活動（たてわり掃除、陵西チャレンジ等）について話し合い ・ 児童アンケートの実施※2 ・ 校内研修の実施（8/26（水）を予定） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合い活動の定着 ・ 教員同士の共通理解と指導法の統一 ・ 年間の活動の見通しをもつ ・ 学級活動の充実 ・ 異年齢集団活動のさらなる充実 ・ 児童会活動の進め方の共通理解
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境整備（児童会活動・クラブ活動コーナーの作成など） ・ 児童会活動の研修（未定） ・ 校内研究授業の実施※1 11月11日（水） 中学年（3-1） 11月18日（水） 低学年（1-2） ・ 児童アンケートの実施※2 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童会活動の充実 ・ 話し合い活動の定着 ・ 教員同士の共通理解と指導法の統一 ・ 学級活動の充実
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童アンケート※2 ・ アンケートなどを通しての振り返り ・ 研究紀要の作成 ・ 次年度以降の課題とまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成果と課題を明確にし、次年度へつなげる

※1 校内授業研について

- ・ 低・中・高学年から各1本ずつ行う。
（6月24日（水）、 11月11日（水）、 11月18日（水） 予定）
- ・ 充実した話し合い活動の追究のため、今年度は学級活動（1）を3本とも実施する。
- ・ 校内研究授業日、またはその他の日で自主公開も可（略案可）

※2 特別活動アンケートについて

- ・ 毎学期1回実施（6月、10月、1月 予定）
- ・ 児童の実態を把握するとともに、アンケート結果を考察し、実践につなげる。

◆上記の研究の他に、一昨年度までの研究の内容が途切れないように、道徳教育の取り組み、算数科を中心とした学力向上の取り組みを全体で継続していく。

○授業力を高めるために、公開授業を積極的に行う。

- ・算数、道徳の公開授業週間（2学期のフリー参観を主に前後の日程で実施）

○今までの算数等の学習の仕方に関する資料を共通理解し、それを基に日々の学習を進める。（陵西算数スタイル、筆算確認事項、学習のきまり、学習の手引き 等）

○「スラスラタイム」「ハッピースタディータイム」等の基礎学力向上の取り組みについては、人権推進委員会が中心となっていく。

○全校道徳

- ・全学級が同じ時間に道徳の時間を行う。（木曜日4時間目）
- ・各学年が実施するなかま集会の内容に沿って、全校で同じ内容項目の授業を実施する。

日程	未定
----	----

○算数・国語の奈良県学力診断テストの実施と考察を行い、今年度の成果と課題から次年度の研究に向けて話し合う。

5、その他

○学級会の進め方、学級会グッズの作成

○学級活動年間計画の作成（5月末日までに）

○児童アンケートの作成、提案（5月末日までに）

○異年齢集団活動の話合い（生徒指導部、文化部、研究部）（1学期中に）

○学級会オリエンテーション（職員）（4月28日（火））←中止